

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

21世紀に、社会から存続を望まれる企業であるためには、もはや「環境」は欠くことの出来ないキーワードです。しかし、経済効率を無視した活動を行ってはいは、企業として存続することは不可能になります。リコーグループの環境への取り組みを振り返ってみると、最初に法規制やお客様からのニーズにお応えするための「環境対応」の時代がありました。やがて地球市民として自律的・継続的に環境負荷の削減に取り組む「環境保全」の時代を迎えます。そして今、私たちは、環境と経営を同軸のものとして捉え、経済効率の高い「環境経営」を実現しようとしています。

メーカーとして環境経営を実現するためには、優れた環境技術を開発し、これを主要機種に搭載して発売することが重要です。2000年度は、先進的な省エネ技術を搭載した「imagio Neo」シリーズを発売しました。この製品を、日本はもとより、世界中の多くのお客様にご利用いただくことで、CO₂の排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献できることを願っています。

2000年度は、グローバルな「ごみゼロ」が進んだ年でもありました。国内の全生産拠点はもとより、フランス、アメリカ、メキシコの全工場でごみゼロを達成しました。海外での廃棄物処理に関しては、埋立がもっともローコストではあるものの、「子供達の未来のためにリサイクルしよう!!」を合言葉に、埋立ごみゼロを達成しました。分別を徹底することにより、廃棄物処理コストの削減と、環境経営の実現に向けての体質改善が大きく進みました。

製品リサイクルに関しては、国内では製品およびトナーカートリッジなどの消耗品のリサイクルネットワークの構築が完了しました。環境負荷情報システムの構築も完了し、2001年度からは、リサイクル事業に関しても、より効率的な環境経営を推進していきます。

環境経営の達成度を把握し、より効果的な活動を推進していくには、環境会計という「ものさし」を、経営ツールとして確立することも重要です。環境会計の構築も軌道に乗り、現在、販売系グループ会社への導入を推進しています。今後は、環境行動計画の目標値設定に活用していくことや、すべての事業活動のなかで環境影響評価を行い、環境会計を企業経営指標のツールとしていくことを目指しています。

環境社会貢献については、2000年度は、NPOや現地の方々とのパートナーシップのもとに、原生林の保全や修復にとり組むとともに、その重要性について世の中に訴えてきました。環境問題は地球全体の問題であり、グローバルな意識改革や、保全活動を重視しているためです。また、青少年の育成をテーマに、子供達が週末を利用して農作物を育てながら大地に学ぶ「市村自然塾」を計画しており、2002年度から開塾する予定です。

地球的規模で見れば、リコーグループの活動だけでは、環境負荷削減効果も小さなものに過ぎません。私たちは、まず自らが環境経営の実現に率先して取り組むとともに、活動を通して得られた情報やノウハウを広く世の中に開示していくことで、人類全体の課題である地球環境保全に貢献していきます。



常務取締役
上席執行役員
環境・社会貢献・渉外担当
CSM(Customer Satisfaction Management)本部長
社会貢献推進室長

飯田 正明

2000年度の主な活動

環境分野

戦略的目標管理制度による部門評価に「環境保全」の項目を導入(1999年度より).....	p15 ~ 16
環境負荷情報システムの構築完了.....	p19 ~ 20
事業活動全体のエコバランスとLCA.....	p21 ~ 22
日本、フランス、アメリカ、メキシコの全工場でごみゼロを達成.....	p25 ~ 28
省エネ複写機 imagio Neo シリーズを発売.....	p36
国内のリサイクルネットワークの構築完了.....	p42
環境会計をマネジメントツールにするための取り組み.....	p65 ~ 68

社会分野

森林保全活動をパートナーシップのもとに推進.....	p51 ~ 52
青少年の育成のために自然塾の開塾に着手.....	p52
環境ボランティアリーダーの継続的育成と全国各地での活動.....	p53 ~ 54

経済分野

7期連続で増収・9期連続で増益を達成.....	p63
アメリカ・ヨーロッパで白黒複写機のシェアNo.1..... アメリカはオフィス用デジタル複写機	p63
国内の顧客満足度調査で、普通紙複写機・ファクシミリともにNo.1の評価.....	p63
直販体制を強化するために米国レニエ社を買収.....	p63